

編集後記

令和最初の『金沢星稜大学人間科学研究』をお届けします。新元号「令和」の出典は、我が国最古の歌集『萬葉集』巻五「大宰帥大伴卿の宅にして宴する梅花の歌 卅二首」を導く漢文序の一節、「時に、初春の令月にして、気淑く風和ぐ。梅は鏡前の粉を披き、蘭は珮後の香を薫らす。」です。日本人の季節感を詠んだ歌集から初めて採った元号の「令」は、「命令」（みことのり）や「法令」（おきて）等の名詞ではなく、「善い」という意味を冠する形容詞です。戦乱のない穏やかな状態が「平和」ならば、「令和」は、人々が美しく心を寄せ合う中で、文化が生まれ育つ、という意味が込められています（「令和」は、……込められています。の引用は内閣総理大臣談話による）。

『萬葉集』は、我が国の豊かな国民文化と長い伝統を象徴する国書であることに違いないのですが、漢字・漢語・漢文が使用されている以上、知的源泉としての漢籍出典を避けることはできません。律令官人かつ萬葉歌人であった大伴旅人や山上憶良の敬慕と憧憬の対象は、漢字文化圏の中華であった唐にあり、本邦知識人の美文規範は唐以前の六朝文学、とりわけ詩文集『文選』所載の作品に求められたことは、比較文学研究の泰斗である小島憲之氏や中西進氏によってつとに明らかにされています。この度の「令和」も『文選』所収の後漢・張衡「帰田賦」の一節、「是に於て仲春の令月、時は和し気は清む」が有力な典拠でしょう。

金沢星稜大学人間科学部は「平成」の後半に誕生し、十年の節目を経て新しい時代「令和」を迎えました。当時、「令月吉日」（『儀礼』土冠礼）を見極めて選び、新たな風を吹かせようとして人間科学部の創設に尽力された岡部昌樹先生が、改元後、まもなく逝去されました。この方は、大宰府長官大伴旅人のごとく、多様な人材を活用し、組織にまとめ上げる指導力をお持ちでした。短期間での超人的な仕事量は畏怖の念を抱かせるものでしたが、粉骨砕身のお働きが今日、人間科学部の土台となっていることに、心より感謝の意を申し上げます。

岡部先生の座右の銘は、上越市高田出身の童話作家で、日本のアンデルセンとも呼ばれた、小川未明氏の詩碑に刻まれた「雲の如く 高く くものごとく かがやき 雲のごとく とらわれず」でした。いまは天空の雲となられましたが、どうか学部の行く末を見守ってください。

今号は、こども学科 6 件、スポーツ学科 4 件、人文学部・経済部 1 件、合計 11 件の投稿がありました。どうぞ高覧ご批評くださいますよう、宜しく願い申し上げます。

2019 年 9 月 吉日

編集委員長 馬場 治

《投稿された論文等に関する著作権は基本的に人間科学部に帰属します》

「金沢星稜大学学会 会則と規程等」については下記 WEB サイトの閲覧をお願い致します。

<http://www.seiryu-u.ac.jp/u/education/gakkai/research02.html>

金沢星稜大学人間科学研究 第13巻第1号
(通巻第24号)

令和元年 9 月 25 日 印 刷
令和元年 9 月 26 日 発 行

発 行 金沢星稜大学学会人間科学部会

〒920-8620 金沢市御所町丑10番地1
TEL (076) 253-3984
FAX (076) 253-3998

印刷所 ソノダ印刷株式会社

〒921-8161 金沢市有松4-3-26
TEL (076) 247-5157

金沢星稜大学学会人間科学部会

部会長 奥田鉄人

編集委員 馬場治(委員長)

天野佐知子 山本智恵子